

“ 遠回りこそが  
一番の近道 ”



別当屋敷 和

市立札幌開成中等教育学校  
(MYP/DP)

# IB Alumni Pathways

進学先

## 東北大学

教育学部 教育科学科

入試方式

AOⅡ期

この大学を選んだ理由

「教育」に関わる場や人を複眼的、多層的に捉えたかったからです。東北大学教育学部では教育に対して政治学や社会学、心理学はもちろん、工学や人類学、哲学など多岐に渡る分野と対象についてアプローチと研究ができます。私にはとても魅力的な環境でした。

### ADMISSION PROCESS 受験プロセス



高2/DP1～高3春

#### 英語資格と受験情報整理

- TEAP受験と英検準1級取得でB2以上の英語力の証明
- オープンキャンパス・入試説明会で東北大AO2期受験を決定
- 記述模試受験



高3/DP2 春～夏

#### 受験対策

- 志望理由書の作成
- IB修了のため、Visual Arts
- 国公立二次試験レベルの英語と現代文・小論文対策



高3/DP2 11月前半

#### AOⅡ期①

- 11月：IB最終試験と同時期にAOⅡ期受験
- 二次試験に向けた面接練習



高3/DP2 11月中盤

#### AOⅡ期②

- 一次試験合格発表、二次試験（面接試験）を受験



高3/DP2 11月後半

#### 最終合格決定

- 11月後半：合格発表
- 12月～：高校卒業のため、不足していた理科学科目（地理・化学を選択）の受講



### 受験で努力したこと

AO II 期とIB試験、不手際で未完だったVisual Artの課題を抱えていたので、スケジュール管理が肝でした。受験を決めてすぐに過去問と学部の特徴を分析し、出題意図に適した教材と資料を選びました。特に新聞や新書などを沢山読み、小論文問題や面接でどんな話題にも対応できるようにしました。



### 大学生活で最も発揮していた IBの学習者像 (Learner Profile) とは？

「心を開く人」：

はじめから自分の分野を限定せず、どんな発見や情報、関わりも大切に、積極的に取り組もうとする姿勢を持つことで、新たな研究テーマやアプローチ方法を思いついたり、人脈を築くことに繋がっています。



### 現在のキャリア・今後の目標

将来は研究者として、生まれた時から傍にある人間活動である「教育」を問い、勉強や学びが学校や教科書を越えて広く存在する取り組みだと再定義していきたいです。そのためにこれからも研究の方法論や研究史について学修を深めたいと思います。



### 大学で学んだこと

1年生の間は専門分野に分かれないため、広い分野の授業を受講できます。キャリアの一環として高校の社会科教員免許取得を目指しているので、まずそこに必要な授業を履修しています。それに加え、TOKで知の領域ごとの世界に対する異なる視線の向け方とそこから生じる異なる知の面白さを実感したため、積極的に異なる分野の授業を受けています。例えば文学部生向けのラテン語や理学部生、医学部生向けの科学英語という授業を選択しました。三位一体論の原文や放射線同位体研究装置など、教育学内のみであれば関わらないであろう知識に触れられ、とても刺激的です。



### IBで学んだスキルが 大学の学びで生かされた場面

IBでの探究活動を通じて、研究技術と停滞への向き合い方を学びました。課題設定から計画・修正を繰り返す中で、情報収集や議論構成の力を磨くと同時に、粘りすぎや方向転換の遅れによる失敗も経験しました。こうした試行錯誤は大学でも生きており、行き詰まった際に原因を分析し、粘るべきか視点を変えるべきかを判断する冷静さを培えたと感じます。判断が常に正しいわけではありませんが、失敗から目をそらすず次に生かそうとする姿勢も、IBでの経験から培うことができました。